The UK / Ireland Nuclear Free Local Authorities からの

年次総会に向けたメッセージ

スコットランドのウェスト・ダンバートンシャー市議会議員のローレンス・オニールです。英国・アイルランド非核自治体（NFLA）の議長を務めています。「脱原発をめざす首長会議」の皆様、ありがとうございます。大変光栄です。NFLA は、2023 年 3 月に貴団体とパートナーシップ協定を締結し、日英両国で脱原発に協力できることを喜ばしく思います。

NFLA は 1981 年にマンチェスターで設立され、事務局は現在もマンチェスターにあります。原子力発電に関連するリスクとコストに関する懸念と、それに反対するという目的を持っています。日英両国が将来必要とするエネルギーは、安全で持続可能で、国民にとって安価であり、環境を破壊しない電源から供給されなければならないと考えています。

悲しいことに、私たちは 1957 年に英国で起きたウィンズケール原子力発電所火災や 2011 年に日本で起きた福島第一原子力発電所での事故によって、原子力発電がどれほど私たち人間や地球を脅かすのかを目の当たりにしてきました。

英国とアイルランドにおける NFLA の活動について少しお話しをさせていただきます。英国では現在、イギリスのサフォーク州のサイズウェル B 原子力発電所にある加圧水型原子炉 1 基と、ランカシャー州、クリーブランド州、そしてスコットランドのトーネスにある旧式の先進ガス冷却原子炉が稼働しています。これらは、フランス国営企業が株式の過半数を所有しているフランス電力（EDF）によって運用されています。

老朽化した改良型ガス冷却炉は、部品故障のためにオフラインになることが増え、安全運転に不可欠な黒鉛炉心が回復不能なまでに減少し続けるため、2030 年までにすべて閉鎖される予定です。この発電力を補うため、フランス電力は現在、イギリス南西部のサマセットにヒンクリーポイント C 原子力発電所を建設しています。フランス電力の前最高経営責任者は、2017 年のクリスマスには英国の顧客がヒンクリーポイント C の電気を使って七面鳥を調理するだろうと予測していました。とんでもない予測です。

クリスマスが 6 回も過ぎた今、ヒンクリーポイント C の建設は相次ぐ遅延とコスト超過に陥っています。発電所の建設費は、当初 180 億ポンド（約 2 兆円）と予想されていました。しかし、この見積もりは現在 350 億ポンドに倍増しています。 しかし、これは 2015 年の数字に基づいた見積もりです。2024 年に換算すると 460 億ポンド（約 8 兆 8000 億円以上）に上ります。完成予定日も少なくとも 2032 年に延期され、最初の予想より 15 年も遅くなっています。しかし、さらに費用がかかり、時間もかかるでしょう。

ヒンクリーポイント C によって本当に調理されたのは、七面鳥としてのフランス電力だけでした。現在、この件でダメージを受けたのは遅延とコスト上昇のリスクを受け入れることに同意した EDF 社だけです。しかし将来的には、英国の納税者はそれほど恵まれないでしょう。ヒンクリーポイント C は、コスト高で厄介な原子力の白い象（無用の長物）であるにもかかわらず、現政権は原子力を支持し続けています。

英国の閣僚は最近、2050 年までに原子力発電容量を 3 倍の 24GW にする「民生用原子力ロードマップ」を発表しました。ヒンクリーポイント C に加え、2 基の大型ギガワット原子力発電所を建設することと、それらを補完するいわゆる小型モジュール炉および改良型モジュール炉を建設することが含まれています。加圧水型原子炉と並行して建設されるサイズウェル C の第二発電所もフランス電力が建設する予定です。

「開発許可命令」と呼ばれる政府の許可が下りたばかりで、英国の閣僚は民間セクターからの資金を確保することなく、13 億ポンドを投じました。サイズウェル C の建設費は 300 億～400 億ポンド、あるいはそれ以上かかる可能性があるため、大きなハードルとなっています。

また、英国政府が、2030 年代初頭からプレハブで英国全土に配備できるよう、さらに公的資金を投入する、いわゆる小型モジュール原子炉の設計を 2～3 件選定するコンペを実施していることも、みなさんはご存じだと思います。しかし、これらの原子炉設計のほとんどは、まだ机上やコンピューター画面上の図面であり、原子力規制当局や環境規制当局から必要な承認を受けたものはなく、実際に建設されたものもありません！すべてが夢物語であり、実証されていない、今後も稼働しないかもしれない原子炉に税金をばら撒いているだけです。

その一方で、英国の国内エネルギー消費者は高額の請求書に直面し続け、気温と海面上昇という気候変動の影響に直面しています。そして最後に、この中でも最大の「核の象」である英国の放射性廃棄物をどうするかという問題です。

英国政府は、140 トンものプルトニウムを含むレガシーと将来の核廃棄物のために、深層永久処分場を建設するという物議を醸す決定を下しました。政府は、カンブリア、ヨークシャー、リンカンシャーの地域社会で候補地を検討してきています。この物質は 10 万年間放射性物質であるにもかかわらず、彼らはまず市民に尋ねることを考えませんでした。自分たちの住む地域が核廃棄物のゴミ捨て場になるのを見たくないため、ニュースを聞いた地元の人々が立ち上がり、反対してきました。当然のことです。

この核の悪夢に立ち向かい、40 年以上にわたり、NFLA は民生用原子力発電と核兵器に反対する自治体の声を代弁してきました。再生可能なエネルギーの未来と、核兵器のない平和な世界のために闘い続けています。地方自治体には、公共の安全を促進し、環境を保全し、緊急事態に備え、市民に情報を提供する責任があります。

イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、アイルラ ンド共和国の NFLA は、国の政策に影響を与えるために協 力しています。原子力、再生可能エネルギー、放射性廃棄物管理、原子力緊急時計画、核物質の輸送、その他関連するテーマ、例えば、セラフィールドやドウンレイからの放射性物質排出による海・陸・大気の続く汚染などについてです。

NFLA の目的は、国の原子力政策が地域社会に与える影響を明らかにし、国の原子力政策に対する地元の説明責任を高め、原子力の危険性を最小限に抑え、公共の安全を高め、 再生可能エネルギーの発電を広げることです。新規原子力発電事業に反対し、老朽化した発電所の閉鎖を前倒しするよう求め、不要な核廃棄物投棄を阻止し、核兵器が人類にもたらす脅威を終わらせるために、地元の活動家や地域社会を支援できることを誇りに思っています。

また、日本、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパなど、国際的なパートナーとともに、こうした共通の目標を達成し、自然エネルギーに基づくクリーンで持続可能なエネルギーの未来と、核兵器のない世界を確保するために努力していることを誇りに思っています。

本日は、スコットランド、イングランド、ウェールズ、アイルランドの NFLA 加盟自治体から、「脱原発をめざす首長会議」のパートナーである皆様に連帯のご挨拶を申し上げることを光栄に思います。総会の成功を祈念いたします。